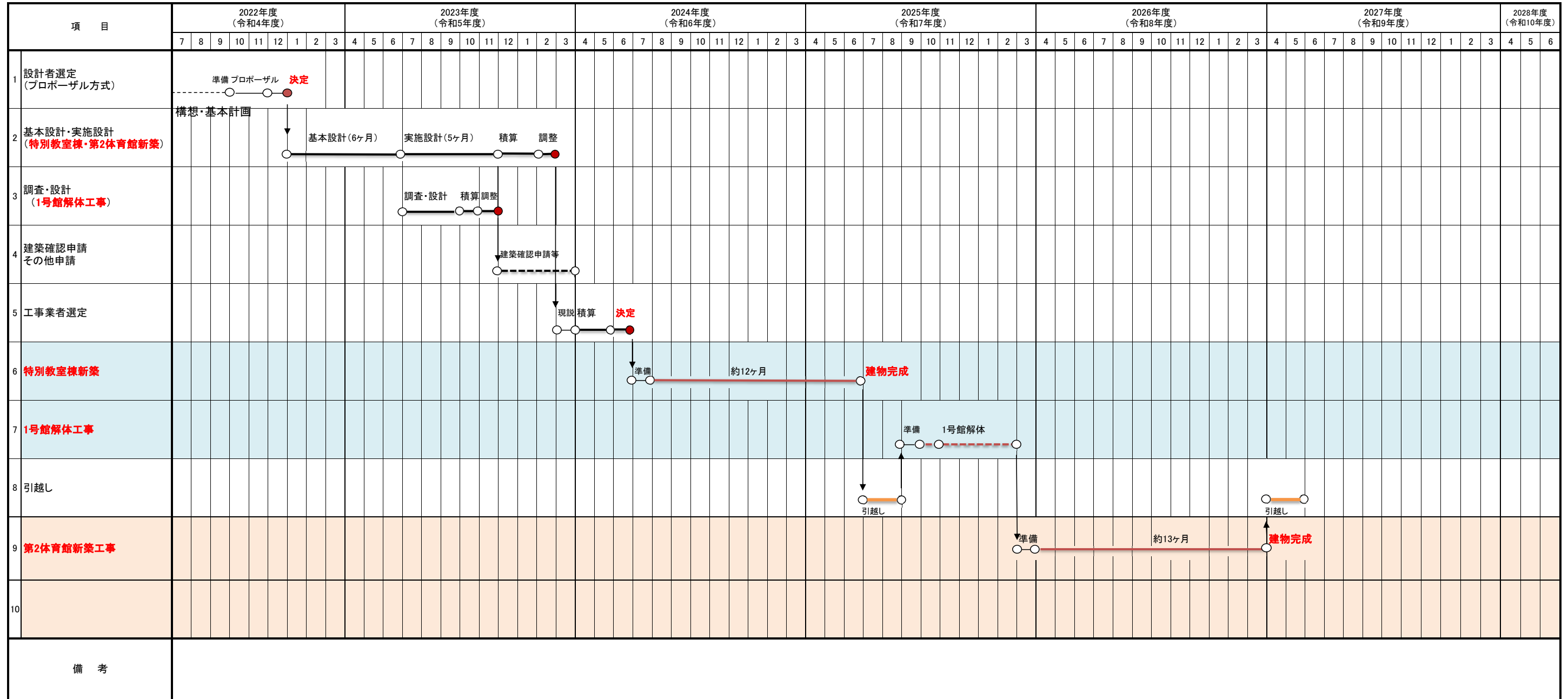

附設第 2 体育館・特別教室棟建築計画

附設第2体育館,特別教室棟新築工事 事業計画スケジュール(案)

令和4年8月1日作成



伝統の継承と、新空間の融合

伝統を継承し未来へ羽ばたく「新しい附設のシンボル」の創設



時代にふさわしい新キャンパスの創設
附設のもつ伝統を継承しつつ、第2体育館・特別教室棟を新たな学び舎として、現校舎と融合させることで、時代にふさわしい新たなキャンパスを創設します。

配置図

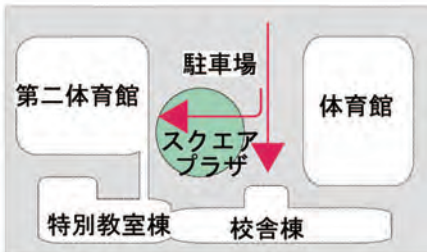
伝統の継承と、新空間の融合による新キャンパスの創設

伝統の象徴として校舎棟玄関ホールを継承

- 校舎棟の玄関ホールは附設の伝統を象徴する空間のひとつであることにより、これを活かした建物計画とします。
- そのため玄関ホール壁面線を意識した建物のボリュームとします。

空間と機能の融合のためスクエアプラザの新設

- キャンパスの空間と機能の融合のため、既設校舎棟・特別教室棟・第2体育館の中心にスクエアプラザを新設します。
- 新たに設けるスクエアプラザは、配置的にも、視覚的にも、すべての施設の中で、この整備により学校全体の景観をより印象的な佇まいとします。



スクエアプラザを中心とした計画イメージ

スクエアプラザによる新たな顔づくり

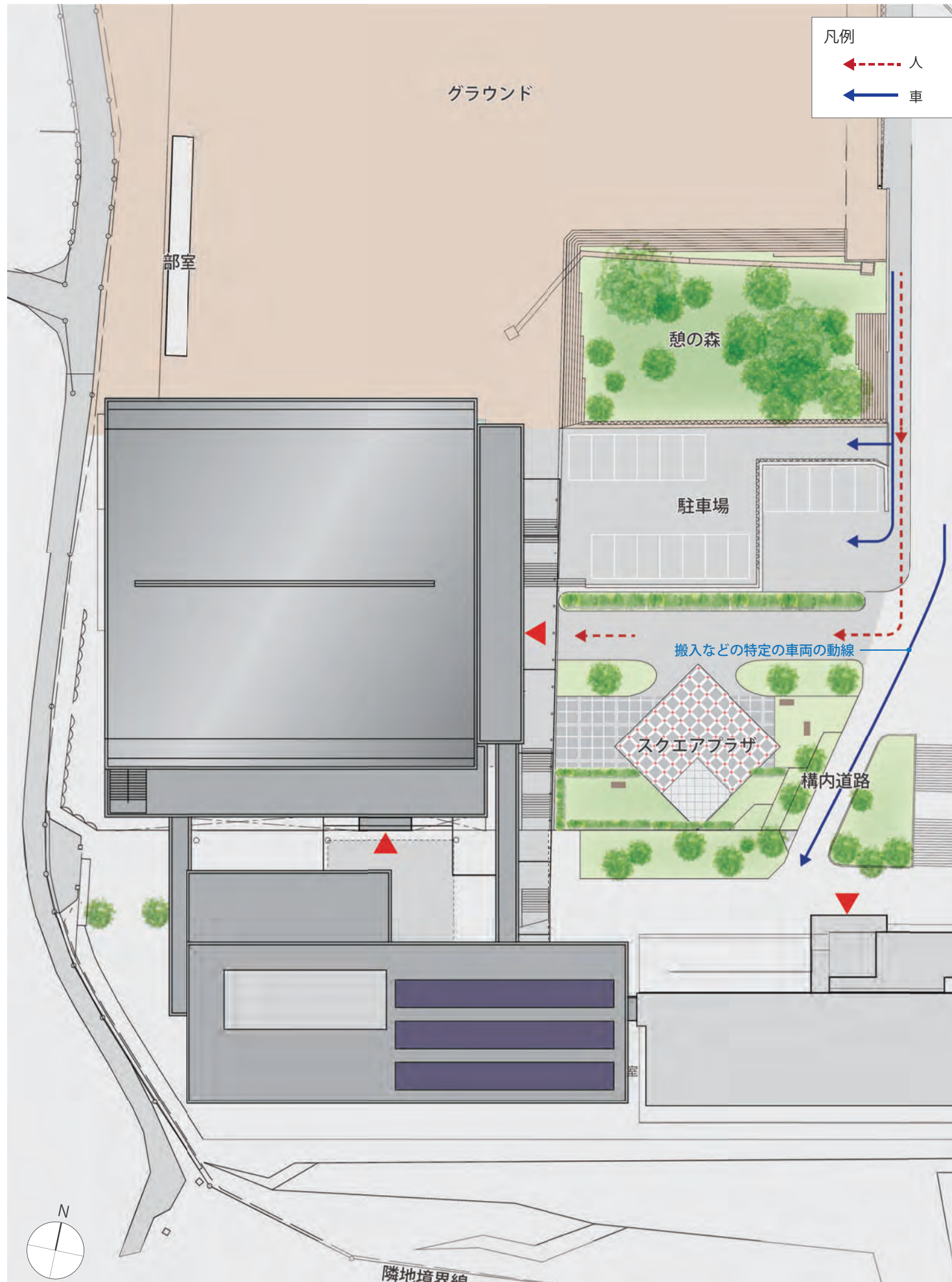
- 第2体育館のエントランス広場となるスクエアプラザは空間としての新たな顔として整備します。
- 第2体育館にスクエアプラザから直接アプローチできる玄関を設け、式典などの来客様にもわかりやすい動線を提供します。

合理的な動線計画が生む機能の融合

- 大勢の移動が伴う第2体育館へのアプローチは、校舎棟になるべく近い部分で渡り廊下を設けて、特別教室棟の機能を活かす計画とします。
- 創作ピロティは吹抜けとし、特別教室棟の内部動線から活動が感じられる計画とします。



敷地全体配置イメージ



配置イメージ

生徒たちの学校生活に配慮した施工計画

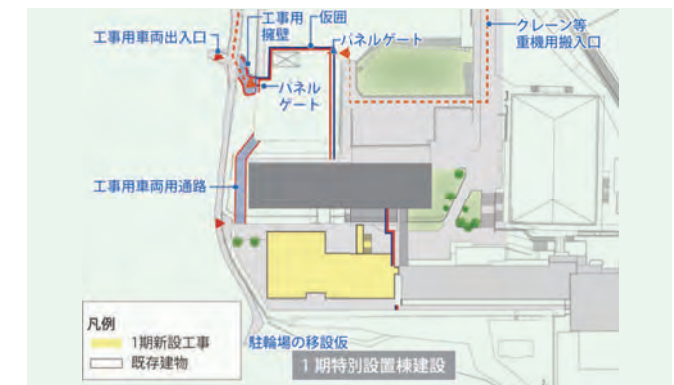
- 校舎棟での授業を継続しながらの移行計画であることより、学校生活の安全性や授業の継続に配慮した移行計画を実践します。

配置移行計画

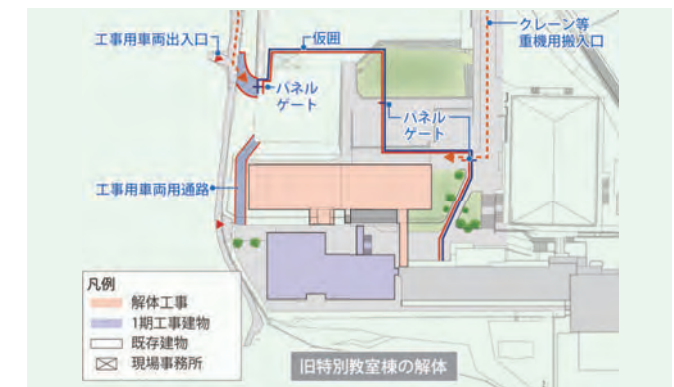
- 1: 駐輪場の移設及び駐車場の解体
- 2: 新設特別教室棟の建設・完成後引っ越し
- 3: 旧特別教室棟の解体 整地
- 4: 新設体育館の建設・外構工事 完成



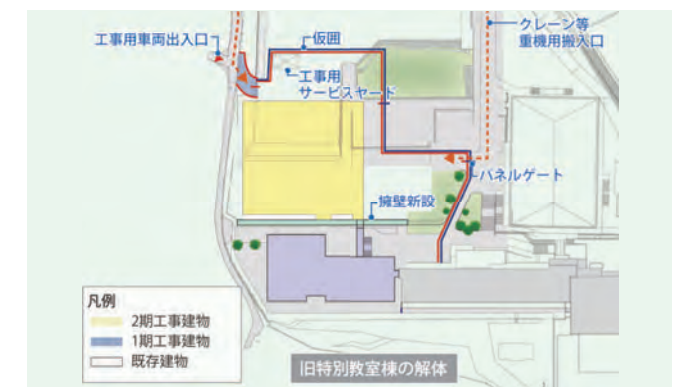
1: 駐輪場の移設及び駐車場の解体イメージ



2: 新設特別教室棟の建設・完成後引っ越しイメージ

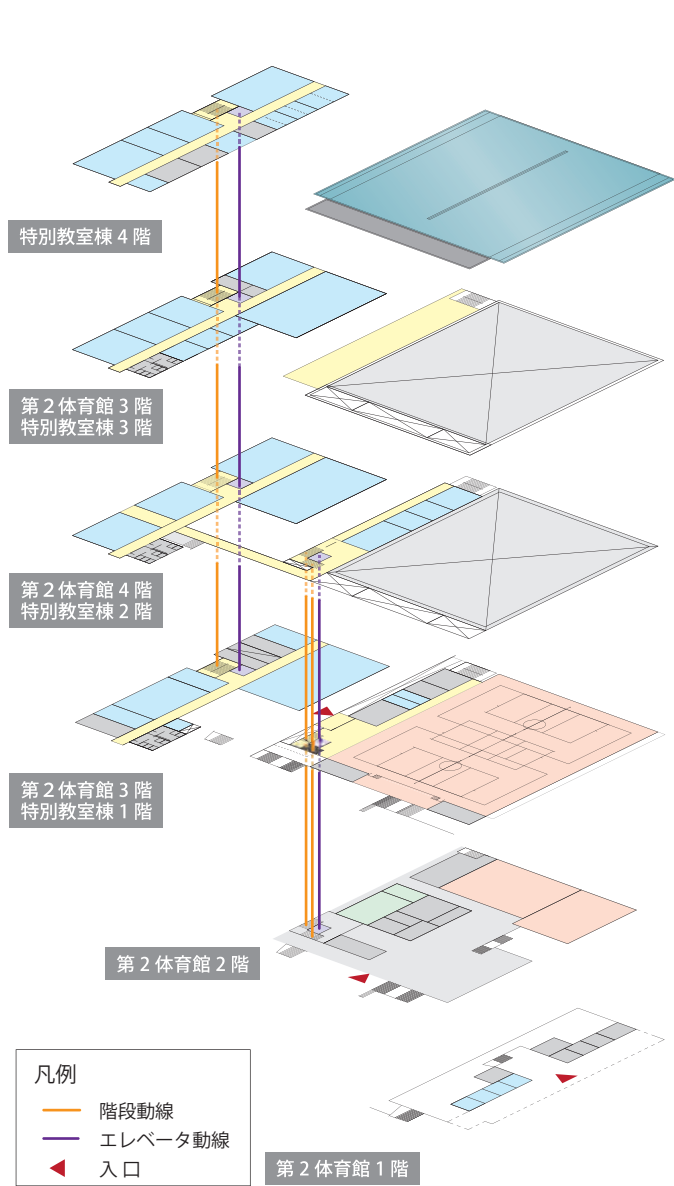


3: 旧特別教室棟の解体 整地イメージ

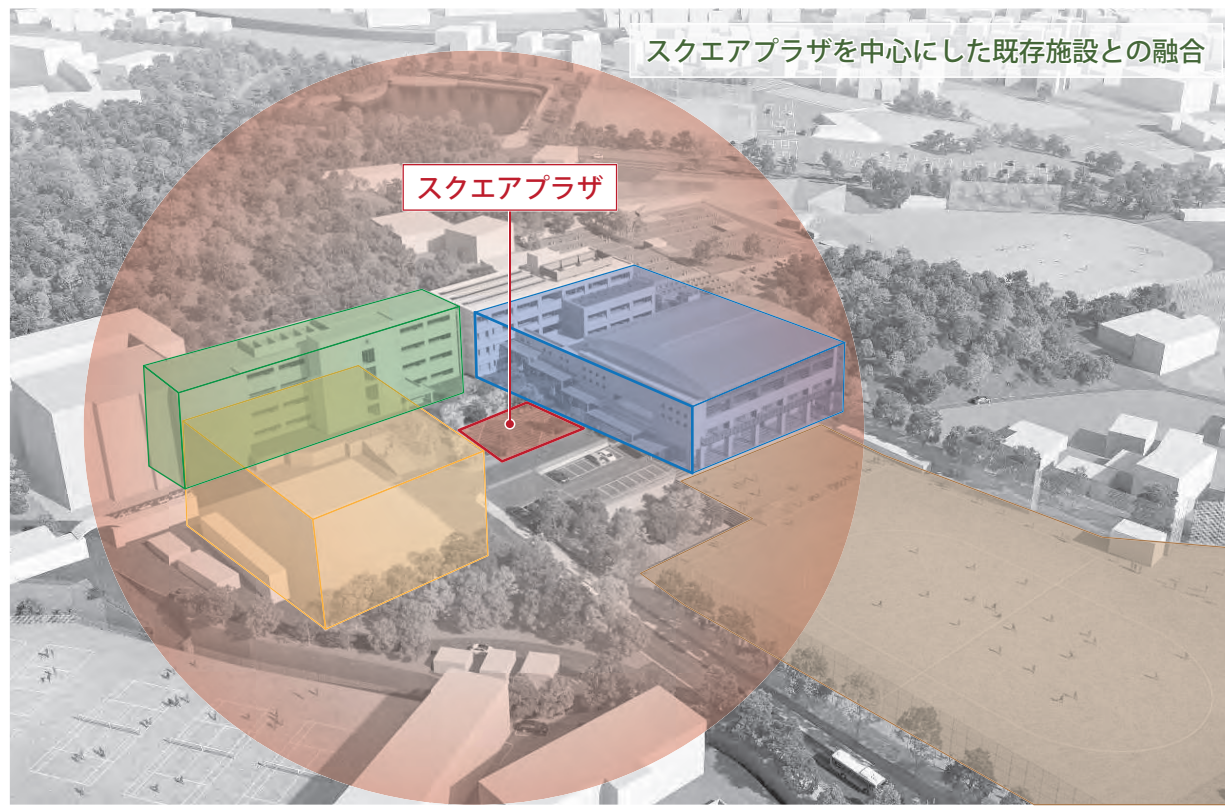
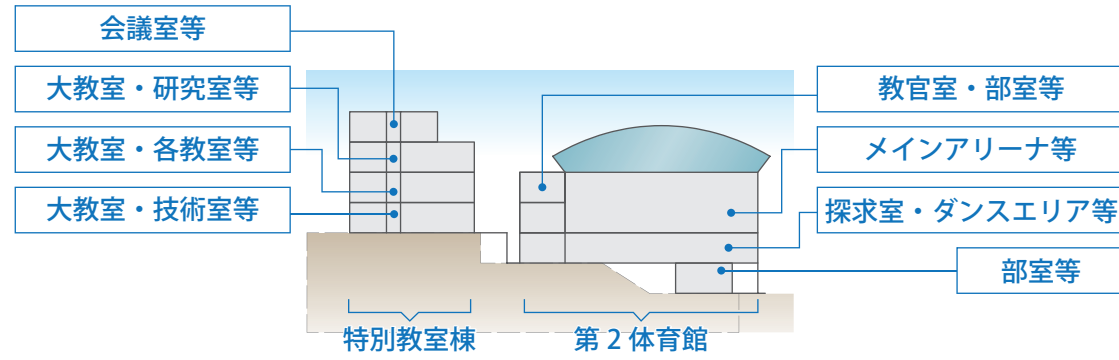


4: 新設体育館の建設・外構工事 完成イメージ

スクエアプラザを中心に伝統と新空間の融合を生むキャンパス



垂直動線説明イメージ



高低差のある敷地形状を活かした平面計画

- 特別教室棟は既存A棟と同じ地盤レベルとします。
- 第2体育館は、高低差のある敷地形状を活かし、3つのレベルからアプローチできる計画とします。
- 第一のレベルはグラウンドと同じレベルとし、体育館の一階に部室などを配置します。
- 第二のレベルはスクエアプラザと同じレベルとし、広いピロティ(2)を計画とします。
- 第三のレベルは特別教室1階と同じレベルとし、生徒の利用がメインの玄関ホール 計画とします。
- 校門から来訪された方は、ゆったりしたスロープを上っていただき、スクエアプラザをへて、ピロティ(2)から第2体育館にアプローチできる計画とします。

体育館の圧迫感を軽減する平面計画

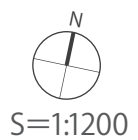
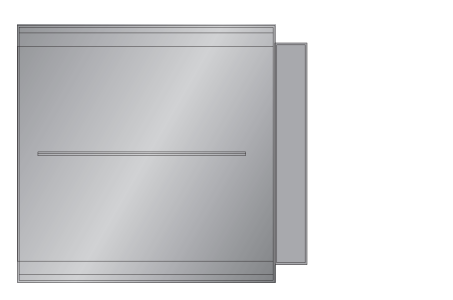
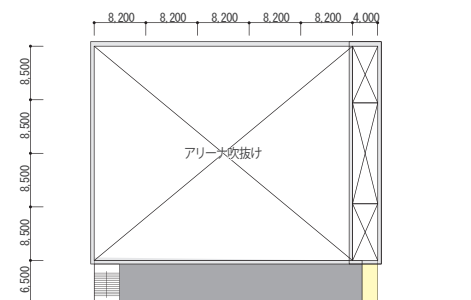
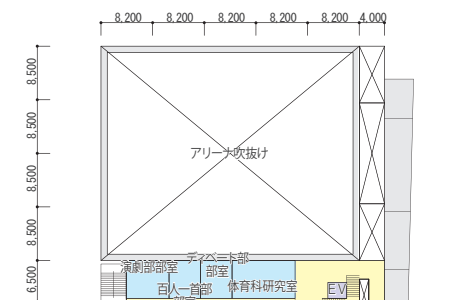
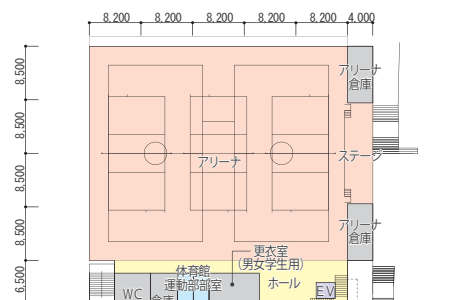
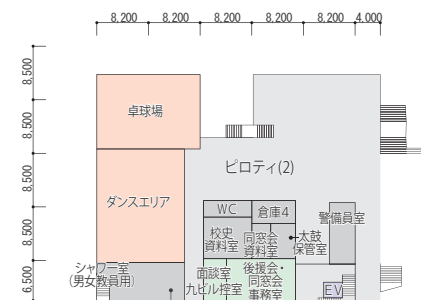
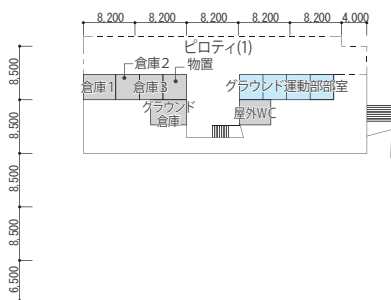
- 第2体育館のピロティ(2)に卓球場、ダンスエリアを計画することで、アリーナフロアの平面的なボリュームを削減し、コストダウンを図ります。
- また特別教室棟の採光等に配慮して、第2体育館の屋根をドーム状にし、軒高を低くしつつ必要な天井高さを確保することが可能な計画とします。
- 安定した自然採光を北側から確保するなど、省エネにも配慮して東西軸の建物として計画します。さらに、Zeb Readyの取得を目指します。

日常の動線に優しい計画

- 第2体育館3階と特別教室棟1階は同じフロアでピロティ(3)を介して接続し、連絡通路を使わなくても雨に濡れずに往來を可能とします。

外部での作業を要する授業を念頭においた平面計画

- 特別教室棟の1階には外部作業を伴う教科をまとめて計画し、作業スペースとしてピロティ(3)を設けます。
- ピロティ(3)は吹抜けとし、「見える、見られる」の関係を作ることにより、学校生活の中での生徒活動が感じられる計画といたします。



第2体育館 1階
168.4 m²

第2体育館 2階
863.3 m²

第2体育館 3階特別教室棟 1階
2,685.5 m²

第2体育館 4階特別教室棟 2階
1,141.0 m²

特別教室棟 3階
945.5 m²

特別教室棟 4階
739.7 m²

合計面積
6543.4 m²



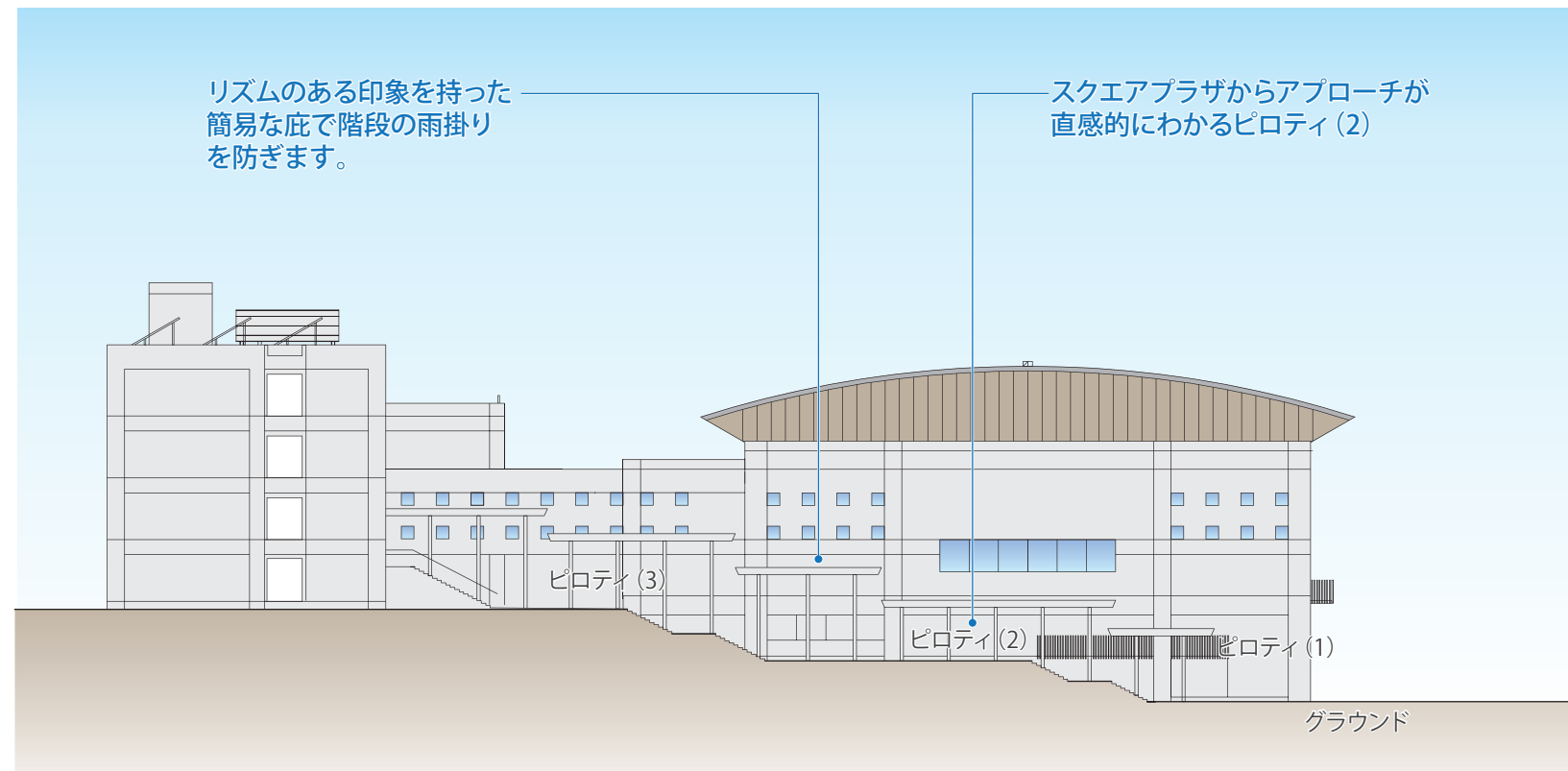
北東側外観イメージ



スクエアプラザからの外観イメージ



グラウンドからの外観イメージ



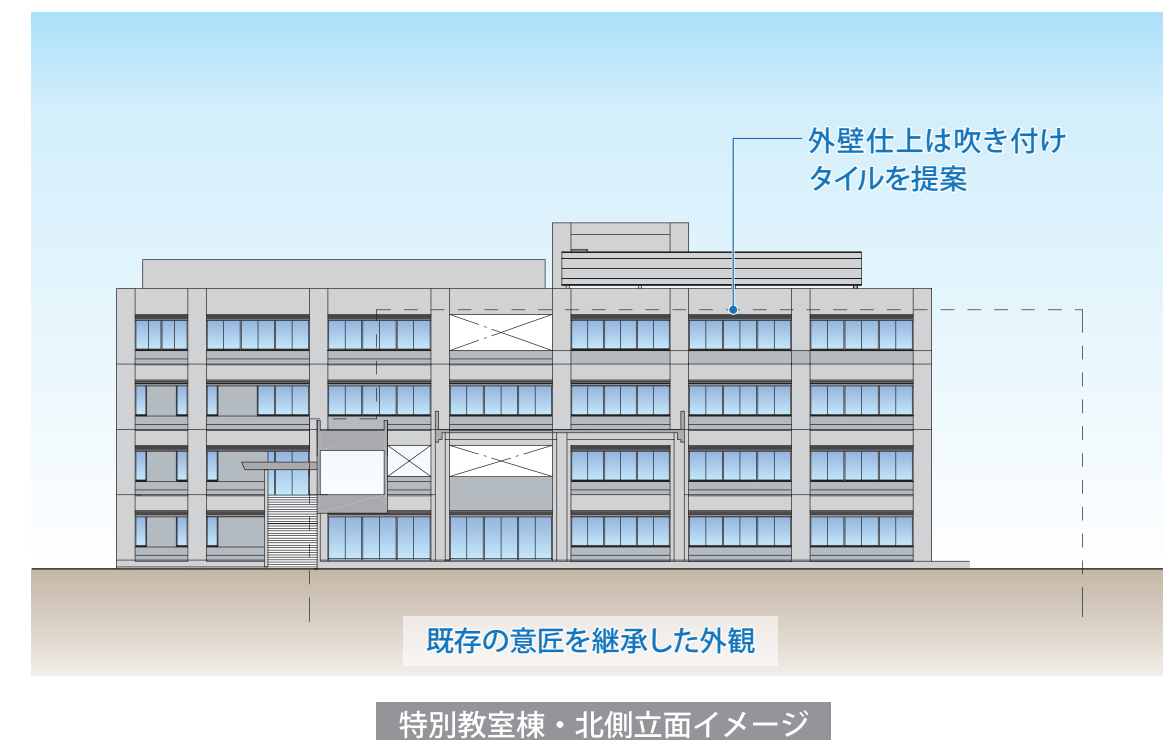
東側立面イメージ

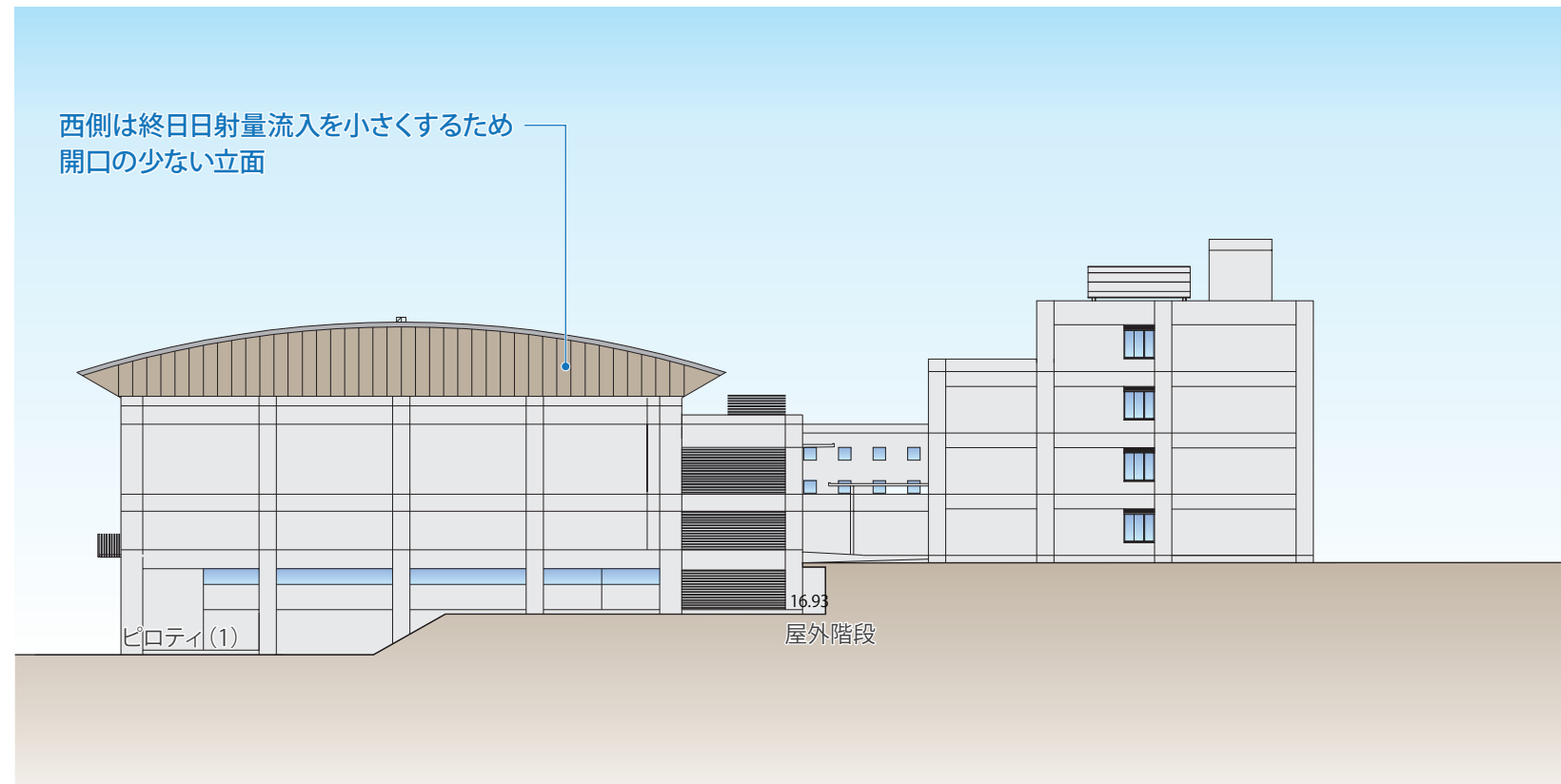


北東側外観イメージ



各ピロティとグラウンドをつなぐ屋外階段イメージ



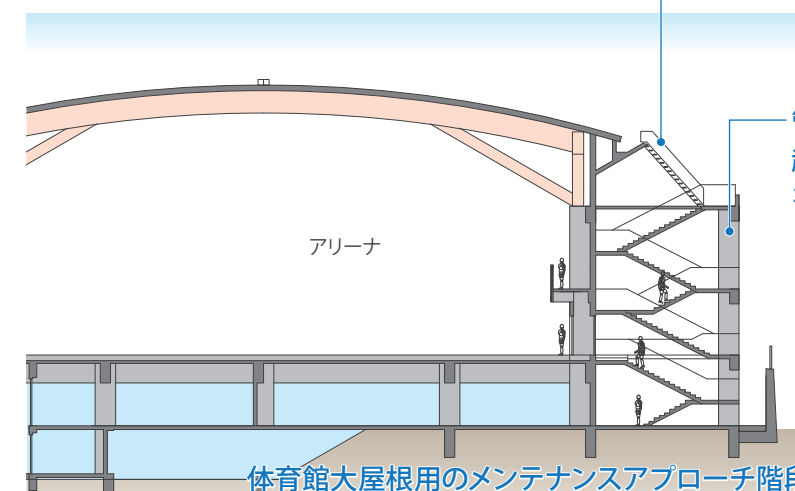


西側立面イメージ

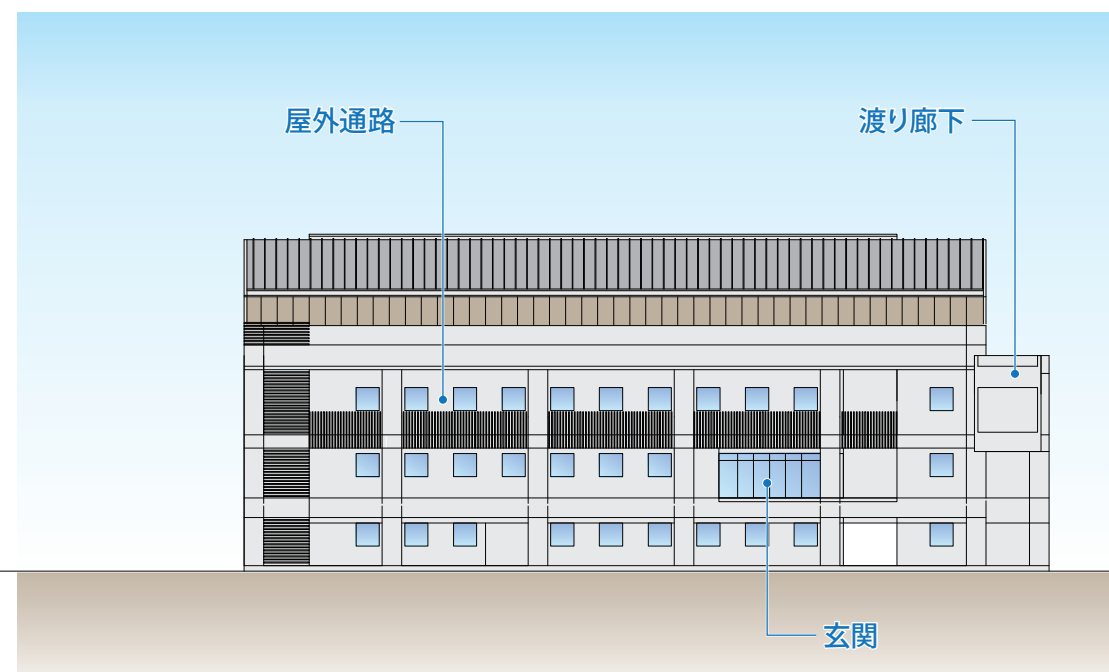


北側外観イメージ

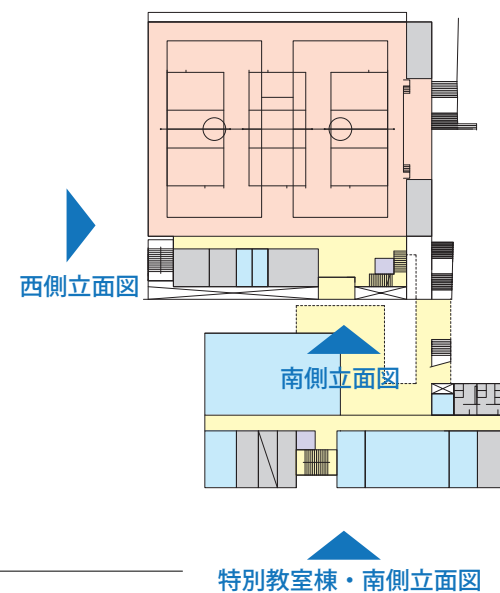
階段の直上に専用階段を設けることで通常の点検の際の危険を減少させます。



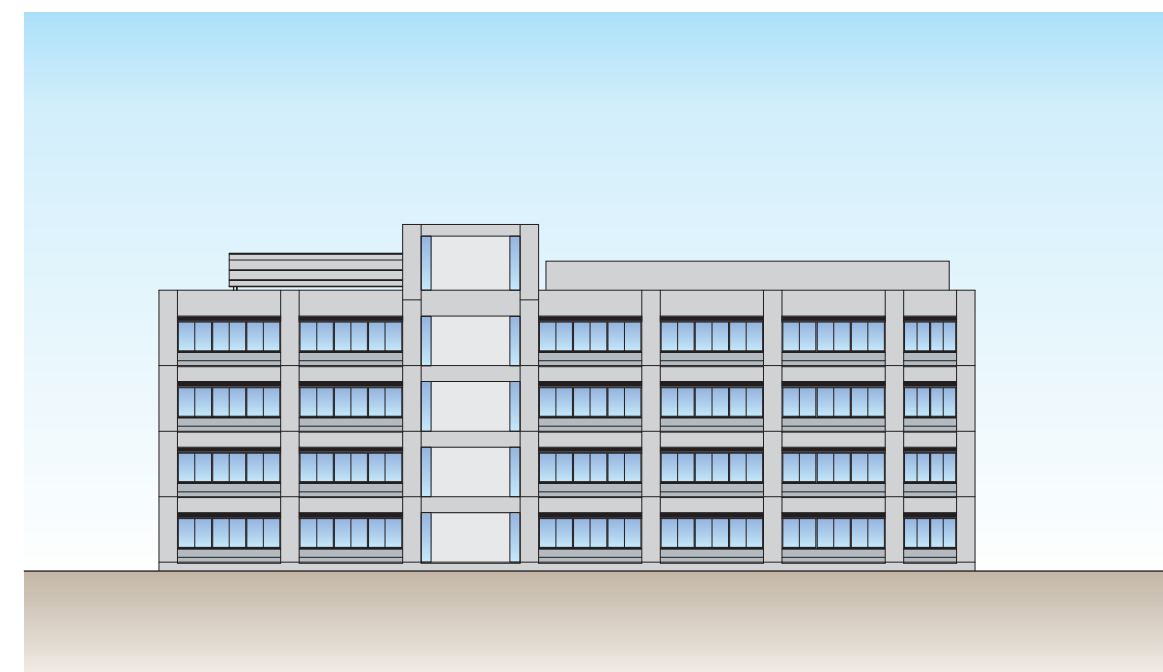
大屋根のメンテナンスアプローチイメージ



南側立面イメージ



キープラン



特別教室棟・南側立面イメージ